



那覇市
総合防災訓練



大規模地震に
緊迫の救助活動

いつ、どのようなかたちで起こるかわからない災害に対して迅速、的確に対応するためには、市民のみなさん、市役所、防災関係機関が一体となって、常日頃から災害に備えておくことが大切です。

2月7日(土)、大規模災害の発生を想定した「平成15年度那覇市総合防災訓練」が那覇新都心の天久公園で行なわれ、地域住民、市職員、防災関係機関合わせて、24団体、約500人が参加しました。

午後2時、地震発生。その強さは震度5強、マグニチュード7.5と推定、1.5メートル級の津波が予想され、ただちに、地上や上空から情報を収集、被害状況が把握されるとともに、広報車や市職員が地域住民へ避難を呼びかけました。

家屋が倒壊し、火の手の上がり
はじめた現場では銘苅新都心自治
会のみなさんが、バケツリレーで
初期消火、救助犬が下敷きになつ
た被害者を発見、駆けつけた消防
職員、市職員が瓦礫（がれき）を
撤去し、救助にあたりました。

また、高層建物の屋上で逃げ遅れた住民に、消防のはしご車が伸び、レスキュー隊が救出活動を展開、救護所に運ばれた傷病者に応急処置が施されるとともに、土のう構築、炊き出し、化学物質の防除、電気・電話などのライフラインの復旧作業が行われるなど、本番さながらの訓練となりました。

主な紙面

家庭用パソコンのメーカー回収
「執心鐘人」を小学生が上演
平成16年度（2004年度）
市長の施政方針（要旨）
技と工夫のすくりむん
情報PACK

市長談
TAIDAN 11



おくむら だいすけ
奥村 大亮
(「MOKU」代表)

1969年札幌生まれ。'93年渡渡。'95年にごみを拾いながら徒歩で日本縦断し、翌年、環境問題などに取り組むMOKU(もく)を結成。'01年に札幌で「チャリタク」を運営。現在、札幌と沖縄を拠点に活動中。

翁長雄志市長 奥村さんは昨年、

首里城周辺で「チャリタク」を自転車タクシー」の営業を開始されましたね。環境にやさしい、新たな交通手段として観光資源にもなり、とてもうれしく思っています。なぜ、この仕事を始めようと思ったのですか。

奥村大亮さん 24歳のとき、植村

直己さんが南極大陸を横断したことに影響され、日本が南極と同じ3千キロと聞き、日本列島を端から端まで4カ月かけて歩きました。そのとき、日本が汚れていることに気づき、環境問題に取り組む「MOKU」を立ち上げました。

市長 私は議員の頃、ずっと

と自転車で通勤をし、今は公務のついでに乗ることができませんが、那覇の自転車事情はよく分かります。沖縄で走らせてみての感想はどうですか。

形態を考えております。奥村さんにもまちづくりに力になってほしいと思います。奥村たいへん励みになります。ありがとうございます。あとお願いがあるのでございます。ま

た通勤などで自転車に乗っていただけでしょうか。

市長 わかりました。頑張ってみます。

で生み出すことができました。日本の北と南で成功できれば日本中どこでも可能だと思っています。だから一番、起伏の激しい首里を選んだのです。

夢は全国に「ちゃりタク」を

奥村 はい。私たちが、どこまでできるか分かりませんが、モデルケースになればと思っています。あいつらがこまでできたのだから、自分たちはもっとスゴイことができるぞ！と他人を触発できるような活動をしていきたいと思います。

市長 私は新都心に乗り捨て

自転車を導入したいと考えています。駅やバス停、店舗前に自転車を約30台置き、モノレールやバスで新都心に来てもらい、そこから自転車で移動してもらおうと思っています。車を使わず歩いたり自転車やチャリタクを利用できる、モノレールを中心とした新しい交通形態を考えております。奥村さんにもまちづくりに力になってほしいと思います。

